

# 平成27年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	167	事業名	区制70周年記念事業「文京区史」の発行
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		歴史・文化情報
個別計画			
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	平成29年3月に区制施行70周年を迎えるにあたり、文京区誕生から今日に至るまでの歴史を後世に記録するとともに、70年の歩みを振りかえり、将来に向けた本区のさらなる発展の指針とします。また、区民の郷土に対する関心と愛着を深め、今後の魅力あるまちづくりに資することを目的として新たな『文京区史』を刊行します。		
手段	平成29年度の文京区史の発行にむけて、編さん作業を進めていきます。本年度は、区史本編及び写真集ともに目次構成とその内容について具体化を図り、執筆作業に着手します。誰もが手に取りたくなる親しみやすい区史とするため今後も検討を重ねていきます。		

2 取組状況	
25年度	
26年度	区史編さん委員会を計2回開催し、区史編さんの基本方針(案)等について協議しました。庁内資料の収集にあたっては、各担当課に基礎資料の調査と関連資料の探索等を依頼し、11月末までに資料収集を行いました。写真資料の収集にあたっては、写真募集のチラシを4,500枚作成し、町会及び区設掲示板への掲示や各種団体への配布、区報や区ホームページなど様々な媒体を活用して広く周知し、現在も収集継続中です。区史編さん業務支援委託の受託者をプロポーザル方式によって選定し、11月末に凸版印刷㈱情報コミュニケーション事業本部と契約締結を行いました。
27年度	

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A		5,501	3,361	11,412		
特定財源		0	0	0		
一般財源		5,501	3,361	11,412		
所要人員 B		1.50	1.50	2.50		
職員1人給与 C		6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C		10,221	10,149	17,360		
総経費 E=A+D		15,722	13,510	28,772		

4 評価					
事業の成果及び課題					
26年度		27年度		28年度	
【成果】		【成果】 執筆の基礎資料となる庁内資料は、計画書や調査報告書のほかにリーフレットやチラシ、写真といった資料もあり約1,400の資料を収集しました。写真資料は、3月末現在で113枚の写真を区民の皆様から提供いただきました。他にふるさと歴史館、広報課、教育センターなど区で管理している写真を調査し、区史本編や写真集で使用できそうな写真の把握を行いました。	【成果】		
【課題】		【課題】 約50年ぶりの編さんということもあり庁内資料で、古い資料については既に現存しないものもあります。足りない部分については現職の職員や職員OBから聞き取りを行い資料の補足を行う必要があります。写真資料は、様々な媒体を使って収集に努めていますが、写真集発行のためにはさらに素材を増やしていく必要があります。	【課題】		
達成度		26年度	27年度	28年度	
			A		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
②区史編さん委員会に、区民代表として町会や民生・児童委員などの方が委員に就任され、委員会では案件に関する協議と様々なご意見をいただきました。また、文の京地域文化インタープリターとして活動している文京区民を区史編さんボランティアとして登録いただき、昔の区報に載った記事のデータ入力作業や写真収集について協力いただきました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	拡充	区史本編の執筆作業が円滑に進むよう本格的な執筆に入る前に各担当課より区の独自取り組みなどについて執筆者へのレクチャーを実施します。また、写真集の作成にあたっては、写真の収集だけでなく、区民に対し聞き取り取材を実施し、写真集に反映します。
27年6月末	拡充	② 当初予算の増減内訳 区史編さん業務支援委託に伴う一般委託費の増 6,693千円
28年6月末		③ 所要人員の考え方 専任職員1人+常勤1人+非常勤0.5×1人=2.5人
		④ 現状維持の理由

# 平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	168	事業名	文の京ゆかりの文化人顕彰事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	平成24年度は森鷗外生誕150年記念事業、平成25年度は徳川慶喜没後100年記念事業を実施し、顕彰を行いました。それらを契機として、文京区に足跡を残した様々な分野の代表的文化人を顕彰し、本区の多様な文化的資源の継承、発掘及び情報発信を進めます。		
手段	顕彰の対象は、その年度が記念の年（生誕、没後等）にあたる文化人を中心に行います。文化資源担当室においては、朗読コンテスト、歴史講座（講演会）、史跡めぐり等の事業を企画、開催します。また鷗外記念館のミニ展示、文化事業係における企画展、観光担当が行う施設整備等とも連携して顕彰事業を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
朗読コンテスト応募者数	人		180	268	149%	180			180
歴史講座申込者数	人		60	69	115%	60			60
歴史講座満足度	%		80	91	114%	80			80
史跡めぐり申込者数	人		30	118	393%	30			30
史跡めぐり満足度	%		80	96	120%	80			80

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A		2,082	2,078	2,092		
特定財源		22	12	22		
一般財源		2,060	2,066	2,070		
所要人員 B		1.00	1.00	1.00		
職員1人給与 C		6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C		6,814	6,766	6,944		
総経費 E=A+D		8,896	8,844	9,036		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】		【成果】	26年度は没後50年を迎える作家・佐藤春夫を中心に、講演会（友の会共催）、史跡めぐり、歴史講座を行いました。朗読コンテストでは記念の年を迎える作家5人の課題作を設定し、跡見学園女子大学に委託して実施しました。いずれも応募者数も多く、満足度が高い内容でした。また終焉の地に歌碑・記念室を開設する石川啄木についての企画展（文化事業係・文の京地域文化インタープリターとの協働）を開催しました。森鷗外記念館では佐藤春夫、石川啄木のミニ展示を行いました。これらの事業や佐藤春夫の紹介を掲載したリーフレットを発行・配布しました。
【課題】		【課題】	今後も引き続きその年の主な顕彰者を選定した事業を実施します。顕彰する文化人の選定については、歴史的建造物（旧伊勢屋質店）活用事業等、他の事業も考慮し、関連づけた企画を工夫します。また歴史館友の会、大学等とも連携を強め、より魅力ある幅広い事業を展開していきます。
指標達成度		26年度	27年度
			A
		28年度	
		【課題】	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	森鷗外をはじめ、文京ゆかりの文化人に対する区民の興味関心は高く、アンケートでも引き続き顕彰事業実施の要望が寄せられています。
②	史跡めぐりの実施は歴史館友の会「まち案内」ボランティアガイドに委託して行います。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	ゆかりの文化人を顕彰することにより、文の京の文化資源を広く発信し、普及させていきます。
		② 当初予算の増減内訳
		増減なし
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方
		常勤職員 3人×0.3=0.9 非常勤職員 0.5×1人×0.2=0.1 計1.0人
28年6月末		④ 現状維持の理由
		事業の参加率も高く、区民ニーズもあることから、引き続き同様の事業を実施します。

# 平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	169	事業名	文化財行政の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所管	教育推進部	庶務課	
目的	区民の文化財についての関心を高め、郷土愛を醸成するため、区指定文化財の指定と周知及び埋蔵文化財の有効活用を図っていきます。		
手段	①文京区文化財保護審議会を開催し、区指定文化財の指定を推進するとともに、区報等にて広く周知します。 ②遺跡見学会や子ども考古学教室を開催し、埋蔵文化財について学び、体験する機会を提供します。また、発掘調査で出土された遺物等を区施設で展示し、埋蔵文化財を身近に感じられるような場を提供します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
区指定文化財の指定	件	3	1	1	100%	1			1
子ども考古学教室の開催	回	—	1	2	200%	2			2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	437	1,048	631	1,257		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	437	1,048	631	1,257		
所要人員 B	0.45	0.75	0.75	0.75		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	3,091	5,111	5,075	5,208		
総経費 E=A+D	3,528	6,159	5,706	6,465		

4 評価					
事業の成果及び課題					
26年度		27年度		28年度	
【成果】	文京区文化財保護審議会を年4回開催し、区指定文化財を3件指定し、総計で80件となりました。	【成果】	文京区文化財保護審議会を年4回開催し、区指定文化財を1件指定し、総計で81件となりました。また、新たに子ども考古学教室を2回開催し、小学生に埋蔵文化財について学ぶ場を提供しました。定員を上回る申し込みがあり、参加者からは概ね好評を得ることが出来ました。そのほか、区施設での埋蔵文化財の展示として、文京総合福祉センター建設工事に伴う発掘調査で発見された神田上水旧白堀跡を整備し、多くの区民に周知することが出来ました。	【成果】	
【課題】	区指定文化財を広く周知していくとともに、活用方法について検討していく必要があります。	【課題】	区内の文化財を活用し、区民が文化財を身近に感じられるように周知していく必要があります。また、子ども考古学教室については、開催時期等を検討する等、より良い学びの場となるように検討する必要があります。	【課題】	
指標達成度		26年度	27年度	28年度	
			A		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①自由研究のテーマにしたいので、夏休みの前半に開催して欲しい（子ども考古学教室参加者） 勾玉を作れて楽しかった（子ども考古学教室参加者）	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	拡充	① 事業の展開内容 区指定文化財の指定や子ども考古学教室を軸に、区施設での埋蔵文化財の展示等、文化財の周知・活用を展開していきます。 ② 当初予算の増減内訳
27年6月末	拡充	子ども考古学教室の開催回数の増による予算の増。
28年6月末		③ 所要人員の考え方 区指定文化財の指定0.45人、子ども考古学教室の開催0.3人
		④ 現状維持の理由

# 平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	170	事業名	アウトリーチ事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	身近な施設で優れた芸術文化に直接触れ、参加する機会を提供することにより、区民の芸術文化に対する理解や関心を深めます。		
手段	小・中学校や地域の文化施設など、身近な施設に演奏家等が出向き、ミニコンサートを開催します。また、コンサートの中で参加者が演奏に参加し、芸術文化に触れる機会を設けます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
アウトリーチ事業（小・中学校）開催回数	回	4	4	4	100%	4			4
アウトリーチ事業（文化施設等）開催回数	回	2	2	2	100%	2			2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	2,585	2,623	2,623	2,623		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	2,585	2,623	2,623	2,623		
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	1,030	1,022	1,015	1,042		
総経費 E=A+D	3,615	3,645	3,638	3,665		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	平成25年度は、アウトリーチ事業として、提携団体である東京フィルハーモニー交響楽団及びシエラ・ウィンド・オーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など887人に鑑賞いただきました。	【成果】	平成26年度は、アウトリーチ事業として、提携団体である東京フィルハーモニー交響楽団及びシエラ・ウィンド・オーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など1,163人に鑑賞いただきました。 (東京フィル：汐見小学校、小日向台町小学校) (シエラ：茗台中学校、第九中学校) また、ミュージックネット加入施設2か所でコミュニティコンサートを実施し、427人に鑑賞いただきました。
【課題】	小学校・中学校での「出前コンサート」について、児童・生徒だけでなく近隣住民の皆さんにも広く周知し、鑑賞いただける工夫を高めていく必要があります。また、子どもから大人まで楽しみながら参加し、音楽や芸術に対する関心を高める「体験型」の企画をより一層充実させる必要があります。	【課題】	小学校、中学校など若年層を中心に事業を実施していますが、今後はその対象を広げ、さらに多くの区民が身近に文化芸術に触れることができる機会を提供し、区内で新たな文化が創出されるための支援を行う必要があります。
指標達成度		26年度	27年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①小学校・中学校での「出前コンサート」では、鑑賞をした生徒、児童が演奏を行った団員に対し送ったメッセージの中に、「初めて生で音楽を聴き感動した」、「自分も将来プロの音楽家を目指したい」という前向きなコメントが多数寄せられました。	②ミュージックネット加入施設2か所で実施したコミュニティコンサートにおいては、公演内容や時期について実施施設側との綿密な打ち合わせにより、予想を上回る来場となりました。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	② 当初予算の増減内訳 増減なし
		③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人
27年6月末	現状維持	④ 現状維持の理由 事業規模は現状維持を基本とし、個々の事業の内容の充実を図っていきます。また、指定管理者が実施する自主事業においても、多種多様な文化芸術振興事業を実施していきます。
28年6月末		

# 平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	171	事業名	シビックホールでの文化芸術振興事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	優れた芸術鑑賞事業や区民参加型の事業を実施することにより、区民が文化芸術に触れ、体験できる場を提供します。また、事業を通じて芸術文化の振興を図ります。		
手段	事業協定を結ぶ芸術団体による芸術鑑賞事業や区民参加型事業をシビックホールにおいて実施します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大ホール事業開催回数	回	4	4	4	100%	4			4
小ホール事業開催回数	回	2	2	2	100%	2			2
区民参加事業開催回数	回	2	2	2	100%	2			2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	5,666	35,979	35,979	35,979		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	5,666	35,979	35,979	35,979		
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	1,030	1,022	1,015	1,042		
総経費 E=A+D	6,696	37,001	36,994	37,021		

4 評価				
事業の成果及び課題				
26年度	27年度	28年度		
<b>【成果】</b> 東京フィルハーモニー交響楽による公演を3回実施、来場者は延べ4,604人でした。シナ・ウインド・オーケストラによる公演は1回実施し、来場者は1,688人（大ホール） 東京フィルとシエラによる子ども向けコンサートを2事業4回実施、来場者延べ1,185人（小ホール） 区民参加演劇は14人が受講、延べ83回の講習を経て成果を発表、公演は2回実施。来場者延べ498人（小ホール） 区民参加オペラは111人が受講、延べ52回の講習を経て成果を発表。来場者数1,292人（大ホール）	<b>【成果】</b> 東京フィルハーモニー交響楽による公演を3回実施、来場者は延べ4,789人でした。シナ・ウインド・オーケストラによる公演は1回実施し、来場者は1,231人でした。（大ホール） 東京フィルとシエラによる子ども向けコンサートを2事業4回実施し、来場者は延べ1,169人でした。（小ホール） 区民参加演劇は8人が受講、延べ80回の講習を経て成果を発表、公演は2回実施し来場者は延べ291人でした。（小ホール） 区民参加オペラは138人が受講、延べ52回の講習を経て成果を発表。来場者数は1,472人でした。（大ホール）	<b>【成果】</b>		
<b>【課題】</b> 区民に「文京シビックホール」をより一層身近に感じていただくため、事業協定を結ぶ芸術団体を持つ強みを最大限に活かしたオリジナル企画を今後も継続することが必要です。 また、既存の広報手段に加え、ツイッターやフェイスブックなど、ソーシャルネットワークサービスを効果的に活用し、ホールへ足を運んでいただくための情報発信を一層強化する必要があります。	<b>【課題】</b> 事業協定を結ぶ芸術団体による事業では、シビックホールでの鑑賞事業に対し高い満足の声をいただいておりますが、芸術文化の振興を図るため、今後も質の高い事業を継続していく必要があります。 また、広報について、区報や財団広報誌「スクエア」だけでなく、ホームページやツイッター、フェイスブック等、インターネットを活用した情報発信を一層強化していく必要があります。	<b>【課題】</b>		
<b>指標達成度</b>		26年度	27年度	28年度
		A	A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①事業協定を結ぶ芸術団体による鑑賞事業では、演目や出演者の選定の際は区民の方からのご要望が多いものを盛り込むなど、満足度向上のための取り組みを継続しています。各公演ごとに実施しているアンケートでは、来場された区民の方より満足された旨のコメントを多数いただいています。 ②当該事業全体の総来場者数は前年度を若干下回りましたが、区民参加事業については、創作活動に熱心な区民の方の参加が毎年続いています。活動の成果を披露する年度末の本番公演には、出演者だけでなく多くの区民の方が来場され、文京区で創作された文化芸術の発信を実現しています。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	大ホール事業及び小ホール事業については、今後も継続して提携団体による事業を同回数実施します。また、総来場者数を増やすため、実施日時等、来場しやすい条件設定を行います。 <b>② 当初予算の増減内訳</b> 増減なし
27年6月末	現状維持	<b>③ 所要人員の考え方</b> 3/12月×2人×30%=0.15人
28年6月末		<b>④ 現状維持の理由</b> 事業規模は現状維持を基本とし、個々の事業の内容の充実を図っていきます。また、指定管理者が実施する自主事業においても、多種多様な文化芸術振興事業を実施していきます。

# 平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	172	事業名	文化祭／各種発表会／若手芸術家支援
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	アカデミー推進計画		
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	受け継がれてきた伝統芸能を始めとする多様な文化の次世代への確実な継承と、後継者育成を目的に各種発表の場を提供し、区民の文化・芸術活動の支援と、普及・発展をはかります。併せて、若年層を中心とした新たな文化発信を目指し、ジャンルを超えた交流等を積極的に図る。		
手段	現在の文化育成事業を適宜見直ししながら、継続的に実施するとともに、若年層をターゲットとした企画から運営までも自らが実施するイベントの開催を目指します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
全事業における若年層の参加者数	人	-	110	130	118%	150			190
つどい・文化祭等参加者数	人	3,723	-			-			-
(参考) つどい等出演者	人	3,128	-			-			-
文化祭田品者(茶会参加者含む)	人	595	-			-			-

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	12,226	10,815	10,194	11,347		
特定財源	879	1,105	827	1,115		
一般財源	11,347	9,710	9,367	10,232		
所要人員 B	1.65	1.70	2.70	2.70		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	11,332	11,584	18,268	18,749		
総経費 E=A+D	23,558	22,399	28,462	30,096		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度	27年度	28年度	
【成果】 文化・芸術の普及と発展を目的に、区内の各文化団体や大学等との協働により事業を実施しました。配布物の作成部数・配布箇所を精査したほか、大学生を中心とした若年層へ直接的に周知したことで、新たな参加者の確保、多世代による表現者・鑑賞者の交流の活性にも繋がりました。	【成果】 区内大学のサークルに直接周知を行うなど、若年層に対する事業PRに力を入れた結果、10～20代の新たな参加者の獲得に繋がりました。鑑賞の機会については、未就学児から高齢者まで、多様な世代に対応した事業を展開することができました。	【成果】	
【課題】 文化芸術の確実な継承と発展のため、概ね40歳以下の参加者と次世代を担う人材の確保・育成が必要です。同時に、享受する側の育成も重要であることから、ライフステージに合わせた鑑賞・参加機会の充実と、他地域を含めた情報収集と発信に努める必要があります。	【課題】 大学機関等への継続的な事業周知・情報発信による参加者の裾野拡大と同時に、今後は若年層参加者の定着を図る必要があります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、伝統文化の継承とそれを担う人材育成のため、区民の文化・芸術活動の支援をより一層充実させていく必要があります。	【課題】	
指標達成度	26年度	27年度	28年度
	A	A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①「伝統文化の次世代への確実な継承に向け、一層の若年層の参加を願っている」「つどい事業運営の担い手の高齢化が懸念される」「一日限りの事業実施だけでなく、継続的に学べる機会を設けてほしい」(各関係団体)
②各事業とも、区民からなる主管団体に委託し、円滑な運営となっています。特に大学生によるコンサートは、出演者だけでなく運営も学生が主体的に参加するなど、本区の特性を生かした事業展開となっています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	各団体の自主的な運営を促進するとともに、区内大学を始め地域と連携することで、人材の発掘や新たな企画の発案、潜在的な参画希望者の確保に努めます。
27年6月末	改善・見直し	② 当初予算の増減内訳 文化祭美術品運搬経費増に伴う役務費の増 36千円 文化祭委託費の増 432千円 つどい事業拡充による委託料の増 30千円
28年6月末		③ 所要人員の考え方 常勤職員3人×0.4=1.2人 非常勤職員0.5×3人=1.5人
		④ 現状維持の理由